

● 草の根パートナー型

平成22年度第1回 採択内定案件

<b>I. 提案事業の概要</b>	
1. 対象国名	フィリピン
2. 事業名	マニラ首都圏都市貧困地区における結核感染・発病予防モデルプロジェクト
3. 事業の背景と必要性	フィリピンは結核が未だ大きな健康問題の一つであり、対象地域では、人口集中や劣悪な居住環境、栄養不良等により、結核患者の家族や周辺住民の間で容易に感染が広がりやすい状況である。特にHIV陽性者は結核を発症するリスクが高く、HIV合併結核が国際的な問題となっているにもかかわらず、比国内では現在、HIV陽性者対象の結核健診は提供されていない。また、感染防御対策が的確に実施されていないために、結核患者が治療を受ける保健医療施設内で他の人々に結核を感染させてしまう危険がある。さらに、治療失敗者や多剤耐性結核疑い患者が必要な検査や治療が遅れるために、他の者への結核感染が起こっていると推定される。そこで、結核のさらなる感染を防ぐ対策として、積極的な患者発見・早期治療や、治療失敗患者の治療、感染防御の徹底を行うことが必要と考えられる。
4. プロジェクト目標	対象地域において結核感染予防・治療モデルが実施される
5. 対象地域	マニラ首都圏マニラ市トンド地区・ケソン市バヤタス地区
6. 受益者層 (ターゲットグループ)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. トンド・バヤタス地区における新規登録塗抹陽性肺結核患者800名</li> <li>2. 上記結核患者接触者（家族4名として）3200名</li> <li>3. トンド・バヤタスにおける治療失敗者数30名</li> <li>4. サンラザロ病院に外来通院しているHIV陽性者600名</li> </ol>
7. 期待される成果及び活動	<p>&lt;成果&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一般住民に対して、結核の知識や治療に関してACSMが強化される</li> <li>2. 対象施設において結核健診（接触者健診）が提供される</li> <li>3. 再治療患者が抗結核薬感受性検査を受ける</li> <li>4. サンラザロ病院においてHIV陽性者対象に結核の早期診断及び早期治療の仕組みが構築される</li> <li>5. 対象保健医療施設において結核感染防御が行われる</li> </ol> <p>&lt;活動&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.1) 対人コミュニケーション研修の実施</li> <li>1.2) ネットワーキングの強化</li> <li>1.3) アドボカシーキャンペーンの実施</li> <li>1.4) 健康教育の実施</li> <li>1.5) 事業評価ワークショップ開催</li> <li>1.6) IECマテリアルの作成</li> <li>2.1) 接触者健診現状分析ワークショップ</li> <li>2.2) 接触者健診・IPTについての研修の実施</li> <li>2.3) レントゲン研修の実施</li> <li>2.4) 接触者健診と予防内服（接触者対象）のモニタリングと評価の実施</li> <li>3.1) 治療失敗者／再治療患者のケーススタディ分析ワークショップの開催</li> <li>3.2) 薬剤感受性試験を受けるシステムを構築するワークショップの開催</li> <li>3.3) 患者照会オリエンテーションの実施</li> <li>3.4) 患者照会管理ブックの作成</li> <li>3.5) 治療失敗者／再治療患者ケアに関するモニタリングと評価の実施</li> <li>3.6) 結核診断・多剤耐性結核患者ケア等の研修実施</li> <li>4.1) サンラザロ病院におけるHIV陽性者に対する結核健診および結核予防内服（IPT）ガイドライン、研修モジュールの作成</li> <li>4.2) HIV感染者及びAIDS患者への結核健診・IPTについての研修</li> <li>4.3) HIV/TB研修</li> <li>4.4) レントゲン研修の実施</li> <li>4.5) 結核接触者健診（HIV陽性者）と予防内服のモニタリングと評価の実施</li> <li>5.1) 保健医療施設における結核感染防御についてのガイドライン作成のためのワークショップを開催する</li> <li>5.2) 保健医療施設における結核感染防御についてのガイドラインIEC教材の作成</li> <li>5.3) 保健医療施設における結核感染防御に関する研修の実施</li> <li>5.4) 結核感染防御モニタリングチェックリストの作成</li> <li>5.5) 結核感染防御研修実施後のモニタリングと評価</li> </ol>
8. 実施期間	2011年6月～2014年6月（3年）
9. 事業費概算額	84,498千円
10. 事業の実施体制	日本側機関：公益財団法人結核予防会 フィリピン側機関：公益財団法人結核予防会フィリピン事務所、保健省感染症課、マニラ市保健局、ケソン市保健局、サンラザロ病院、NGO
<b>II. 応募団体の概要</b>	
1. 団体名	公益財団法人結核予防会
2. 活動内容	国内結核対策・結核の国際協力・呼吸器疾患対策・生活習慣病対策の4分野を中心に、保健向上に貢献する活動を行っている。長年にわたり国内の結核対策で培った経験や技術を活かし、開発途上国における結核対策も支援している。